

平成30年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	19	学校名	天竜特別支援学校	記載者	大橋早苗
------	----	-----	----------	-----	------

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	児童生徒理解の上に立った、人を大切にす授業実践と生徒指導、安全管理。	各研修会を児童生徒理解と授業作りに役立てたと答える教員 100%	A	A	・インフルエンザ等の感染症に対する児童生徒への指導の項目があるとよい。
		児童生徒の配慮事項に対する手立てを教員間で共有し実践することで重大事故0 ヒヤリハットの情報共有により再発防止を意識できたと答える教員 100%			
	地震対応行動（避難、保護、引渡し）の確立。	実際に即した訓練ができた教員 100% 学校再開計画の検討と確立。	B	B	（特になし）
イ	短期在籍児童生徒及び未学習の児童生徒への学習指導と保護者への支援体制の充実。	未学習に対応した単元計画の作成と実践ができた教員 100%	B	B	・児童生徒アンケートと保護者アンケートとのずれがある。アンケートの分析の仕方や設問の改善が必要である。
		学習に対する意欲や興味が高まったと答える児童生徒 100%			
		ICT 機器の活用により学習効果が高まったと答える教員 95%以上。			
		ICT 機器の活用により児童生徒の授業への参加率の増加。			
ウ	豊かな表現力を引き出す重度重複障害児童生徒への教育の充実。	事例検討会から得た指導目標や内容を実践できた教員 100%	A	A	（特になし）
		指導法や教材教具の工夫により児童生徒の表出を引き出すことができた教員 100%			
エ	個別の教育支援計画を根拠とした連携体制の確立。	転入学前の各機関における支援内容を把握し、在籍中、転出後の役割分担を明記した個別の教育支援計画を作成した教員 100%	A	A	・指導計画や目標を立てるにあたって、本人のニーズをどのように取り入れるかを考えることが大事である。
		進路や関係機関等に関する理解や知識が向上したと答える教員 100%			

様式 5 号

オ	みゅうの丘協議会と連携した、特色と魅力のある学校づくり。	(高) 厚生会、病院での学習、実習年間 30 回以上。 (小中) みゅうの丘の資源を活用した学習の実施 5 回以上 「みゅうの丘協議会」の実践をまとめ外部に発信する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域をどう捉えるかを押しさえる必要がある。 ・高等部生徒の通学路がある地域との連携が必要である。
	高等部入学選考のあり方の検討と試行へのみちすじづくり。	高等部のあり方についての検討を進め、試案を作成する。	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部生徒が社会に出ていくための課題の優先順位を見極め、個々の課題に向き合えるようにしたい。
カ	一人ひとりが責任をもった業務の遂行とセルフマネジメント力の向上	期限を意識し計画的に業務ができた教員 100% 毎週水曜日 18:00 退庁の実施 100% 目的を見直して行事の実施や業務の遂行ができたと答える教員 100%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・定時が 16 時 45 分であるならば改善が必要である。 ・有給休暇の消化等の健康管理も大切にしたい。